

平成 21 年 1 月 27 日

日本ミルクコミュニティ株式会社
代表取締役社長 小原 實
雪印乳業株式会社
代表取締役社長 高野瀬 忠明

日本ミルクコミュニティ株式会社と
雪印乳業株式会社との経営統合について

日本ミルクコミュニティ株式会社と雪印乳業株式会社は、平成 21 年 6 月に開催予定の両社の株主総会での承認を前提として、平成 21 年 10 月 1 日付けで株式移転により共同持株会社である「雪印メグミルク株式会社」を設立して経営統合することと致しました。また、共同持株会社設立後は、シナジー効果最大化のために事業・組織の再編を進め早期の合併を目指してまいります。

酪農乳業界においては、世界的な資源・食料価格の乱高下やそれに起因する国内酪農生産の停滞等により、生乳・乳製品需給ギャップの振れ幅が拡大してきております。また、食糧消費を巡っては、食の安全・安心に対する意識や健康志向の一層の高まり等、消費者の食に対するニーズが多様化してきております。

消費者意識・行動の変化や、国内酪農基盤の安定と食料自給率の向上が社会的な課題となる中で、今回の経営統合により誕生する新しい企業グループは、消費者および酪農生産者とともに「乳」コミュニティを育ててまいります。

これまでも日本ミルクコミュニティ株式会社と雪印乳業株式会社は事業面で連携関係にありましたが、急激な環境変化に対応しつつ成長戦略を着実に実践していくことを目的に、一層の連携強化について協議を重ねてまいりました。

こうした協議の中で、両社には研究開発、原材料調達、商品開発、生産ならびに販売等の各段階で相互補完の関係にある事項が多く、連携関係の強化のみならず、経営統合により双方の経営資源を一体的に活用することで、一層の企業価値向上が図れると、両社ともに判断するに至りました。

今回の経営統合により、新しく誕生する企業グループは自社完結型のプロダクトミックスを整備し、国際市況や生乳需給の変動に対する対応力を強化して

まいります。さらに、商品展開や対象マーケットの拡大等、新たな価値創造に必要な事業基盤を整備してまいります。

また、両社が保有する、乳全体にまたがる開発力と技術力をより有効に活用し、生乳消費拡大型商品や高付加価値型商品等新しい価値を創造する商品の開発力を強化してまいります。

これまで両社がそれぞれ独自に取り組んできたブランド戦略や営業展開については、双方の優れた部分を取り入れ、カテゴリー・ナンバーワン戦略を展開致します。また、管理部門の一体化や設備投資・人員配置の重点化等を図り競争力を強化してまいります。

雪印乳業株式会社は過去の事件により経営危機に陥り、これを契機に市乳事業を分離して乳食品事業に特化してまいりました。一方、日本ミルクコミュニティ株式会社は、「全国農業協同組合連合会」子会社の「全国農協直販株式会社」および「全国酪農業協同組合連合会」子会社の「ジャパンミルクネット株式会社」の二社と雪印乳業株式会社から分離した市乳事業とを経営統合し新設された経緯にあります。

以後、両社はこれまでの間、酪農生産者や消費者を中心とする関係者の多大なご支援のもとに、食品メーカーの原点である安全・安心を基本に、商品の品質保証体制や、コンプライアンス体制を総合的に見直し、「乳」を核として事業の発展に努めてきました。

生産者団体を主要株主にもつ日本ミルクコミュニティ株式会社と「健土健民」を創業の精神とする雪印乳業株式会社の統合により、新しく誕生する企業グループは、更に「乳」にこだわることに経営の重点を置き、国産生乳および乳製品の価値を高め、消費者の笑顔や健康づくりに貢献してまいりたいと考えております。

今後とも皆様方のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上